

福島・飯館村の子どもたちと小学生がオンライン交流 震災直後から続く交流 鹿児島・出水市



東日本大震災と福島第一原発事故から12年になるのをまえに、鹿児島県出水市の小学生が福島県の小学生とオンラインで交流しました。オンラインで交流したのは出水市の下水流小学校の4年生36人と、原発事故で6年間にわたり全域避難を余儀なくされた福島県飯館村にある義務教育学校・いいたて希望の里学園の3年生と4年生12人です。

下水流小学校は震災直後から、いいたて希望の里学園の前身にあたる小学校に、育てたモチゴメを支援として送るなどの交流を続けています。

この日は、それぞれの地域の特徴や特産品などを説明し、クイズを出しあいました。

「『やんかぶっちょが』とはどういう意味でしょう?」

「『髪の毛がボサボサしている』でした!」

(4年生 江川琴美さん)「元気そうでよかった。(原発事故で)一時は自分の家に住めなくなったのはかわいそう」

(4年生 佐潟拓斗さん)「マイナス11度(と言っていたの)は寒いと思う」「下水流小学校にも来て、と声をかけたい」

子どもたちの交流は今後も続けられるということです。

いいたて希望の里学園との交流の話題が紹介されました

MBCニュース(令和五年 三月九日)

